

---

◇高橋邦武議員

○議長（森元淑雄） 次に、6番、高橋邦武議員の一般質問を許可いたします。高橋邦武議員は、登壇願います。

（6番 高橋邦武議員 登壇）

○6番（高橋邦武） 通告に基づき、つながりが生まれる交流の創出・拡大について一般質問をいたします。

人口減少、少子高齢化が進行する中で地方の過疎化や地域産業の衰退、さらには大規模災害の対応が大きな課題となっています。

また、医療、福祉、宿泊、飲食、運輸、通信、理容、美容等の生活関連など、地方に多いサービスの生産性の低迷を克服することが必要です。

このため、国ではデジタルを最大限に活用して地域経済の活性化を図り、社会変革を実現する目的で、令和4年12月に閣議決定したデジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、各分野の施策を推進しています。

町でも今年3月に第2期美郷版総合戦略を美郷町デジタル田園都市構想総合戦略に改訂しており、4つの基本目標を設定し、人口減少に歯止めをかけるとともに、人口減少社会に対応できるまちづくりを進めています。

基本目標2「新たなひとの流れをつくる」では、継続的に地域に貢献する関係人口の創出、拡大を施策の1つとしており、つながりが生まれる様々な交流を推進することとしています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、各種交流推進事業が頓挫するなどの多大な影響があり、ようやく交流面で回復基調にあると認識しています。

先月の町合併20周年記念パネルディスカッションが大きく報道されたとおり、民間企業との連携による交流は、町の特徴であり、多方面から評価されているポイントの1つですが、今後連携企業交流をどのように深化させ、町の産業振興に結びつけていくのかお伺いいたします。

また、交流人口や関係人口を創出し、拡大するためには、町民参加型の交流事業を推進することが必要です。

私は、令和2年12月定例会の一般質問で、企業、大学、自治体、金融機関に町民を加えた交流会を開催するなど、さらに発展させた連携を提案しましたが、今後十分に検討していく旨の答弁がありました。

そのとき、五城目町のBABAME BASEで人と人の縁を結んだら化学反応のようなものが起きたという話をしましたが、多くの人と会話することにより、新たな人の流れができる可能性が

ありますので、町民参加型の交流事業を実施することについてお伺いいたします。

次に、中山間地域の農業に観光や教育等の他分野を組み合わせることにより新たな農村ビジネスの創出や交流人口の拡大を進めることが必要です。

町では、都市部からの農作業体験の受入れや友好都市との学校間交流を契機として、継続的な交流につなげるため、都市農村交流を推進しています。

今後受入れ農家の維持・拡大、移住就農による新規就農者の確保・育成、半農半Xやワーケーション、農観連携交流、農業体験つきの教育旅行、教育留学などを検討する必要があると思いますが、農作業体験の受入れ人数の増加など、都市農村交流をどのように進めていくのかお伺いいたします。

次に、国際的な視野を広げ、自国文化と異文化に対する理解を深めながら、グローバル社会で必要とされる論理的思考力や課題解決能力を育成するとともに、海外との多様な交流により町民の国際理解を促進することが求めています。

町ではALTや留学生等との交流活動により、児童生徒の異文化に対する興味関心と理解を促進するとともに、認定こども園や小中学校と国際教養大学との交流の充実を図ることとしています。

しかし、町教育委員会令和5年度事務事業点検評価では、小中学校ともに学年が上がるにつれて外国語活動や外国語への興味関心が下がる傾向にあると説明しています。

先月小阿仁小中学校でインターナショナルデーが開かれ、ワークショップなどを通じ英語の会話に挑戦し、交流を楽しんだという新聞記事がありました。やはり、楽しいというのがキーワードだと思いますので、町内で英語を話すことができる人が増えている現状を活用し、町民や留学生を巻き込んだ交流事業ができないか、お伺いいたします。

最後に、生涯にわたり学び続けられる環境を構築するために、優れた芸術文化に親しむ機会の充実を図ることが必要です。

町では、芸術文化活動の活性化を図るため、交流自治体の芸術文化団体との人や作品を通じた交流を促進することとしています。

しかし、町教育委員会令和5年度事務事業点検評価では、成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多いという、内部評価Cに対し、現時点では評価を行わないという外部評価でありました。

内部評価の判定説明では、東京都大田区の麦わら細工サークルの作品展示の可能性を探っていくとのことでしたが、何も交流自治体に限る必要はなく、例えば、スコープ三味線や3B体操など、先進的な取組をしている団体を呼ぶ、または訪問する場合の助成で十分ではないかと思っておりますので、町民の芸術文化への理解や団体の相互交流をどのように促進していくのかお伺いいたします。

○議長（森元淑雄） この質問は町長及び教育長の順に答弁を求めます。はじめに、町長は登壇願います。

（町長 松田知己 登壇）

○町長（松田知己） はじめに、私から2点について答弁させていただきます。

まず、連携企業との交流についてですが、産業振興に関しては、株式会社龍角散とキキョウ栽培、株式会社山崎帝國堂とエイジツ栽培に取り組んでいることは議員ご承知のところではあります。

そのうち、キキョウについては平成30年、エイジツについては令和3年からそれぞれ出荷しております。

その栽培農家についてですが、キキョウは7戸、1,900平方メートルから始まり、現在は16戸、9,120平方メートルまで拡大しており、また、エイジツは現在8戸、7,658平方メートルとなっております。企業交流の結果、栽培農家の営農展開に寄与しているところではあります。

交流による産業振興に関してですが、キキョウ、エイジツに加え、現在新たな作目としてカンゾウ栽培も取り組める環境が整いましたので、今後栽培作目を増やしながら栽培農家及び栽培面積の拡大について企業との交流結果を産業振興につなげてまいりたいと存じます。

また、美郷雪華については、本年7月に株式会社テクノブルと美郷雪華生産組合、町の3者で生産委託契約を行い、令和7年度以降年間100キロ単位で美郷雪華の花穂を買い取るようになっていくことは議員ご承知のところではあります。

現在美郷雪華生産組合では3戸、1,500平方メートルで美郷雪華を栽培しておりますが、今後栽培農家及び栽培面積を増やす方向で取り組んでおり、企業との連携の下、こうした展開で産業振興及び観光振興につなげてまいりたいと存じます。

加えて、株式会社テクノブルとは、美郷雪華のほかにエイジツとセンブリについても取り組むこととしており、今後研修会の開催等により取り組む農家を拡大していくことで活用用途の拡大並びに栽培作目の増加によって産業振興に資してまいりたいと考えております。

なお、美郷雪華については、小川香料株式会社を通じて商品発表会を今年度2回開催しましたが、今後も新商品が発表される際には、できる範囲で町と商品発表会を行うようお願いしており、商品を通じた観光振興、ひいては生産振興にもつながるものと期待しているところではあります。

次に、町民参加型の交流事業についてですが、これまでの町民参加型の交流は、日本航空株式会社との取組で展開してきております。平成25年の連携協定締結以降、町民が参加可能な取組は延べ70件で、これらの取組には約1,140人が参加してきております。

こうした交流を通じ、次の展開につながる人的なつながりができることが望ましいと存じますの

で、引き続き日本航空株式会社との連携を軸とし、各般の取組を展開してまいりたいと考えております。

新たな企画内容については今後の調整となりますが、基本的な考え方としては、都市農村交流を下地に置いた認識で、農作業体験を通じて日本航空社員と農業者が交流を図り、今後の取組拡大に関するヒントや方向性を模索していきたいほか、そうした農作業体験に連携大学の学生や町内企業社員等も参画できないかを検討し、交流の幅を広げることで新たな人の流れの創出につなげてまいりたいと存じます。

次に、都市農村交流の推進についてです。

町では美郷町都市農村交流推進協議会が実施する農家民泊や農作業体験の受入れを支援して、都市農村交流の推進を図っております。

また、千畑小学校と仙南小学校の児童が東京都内の御田小学校、千駄木小学校の児童とそれぞれ相互訪問交流しており、本町に訪問された際には、ホームステイや野菜の収穫体験等を通じて農村への理解を深めていただいているところです。

ご質問の農作業体験の受入れ人数の増加などについてですが、まずは、受入れ農家の維持拡大を図るため、今後は協議会会員からお知り合いの方に入会を呼びかけていただき、受入れ農家の掘り起こしを図ってまいります。

また、町でも来町された方に都市農村交流について積極的に情報提供していくことで、受入れ農家の増加につなげていきたいと考えております。

なお、新たに、農作業体験と併せて農家民泊に取り組みたい農家に対しては、国、県の補助事業を活用して、施設整備等に対する支援を講じ、農家負担の軽減を図りながら取組農家の育成を図ってまいりたいと存じます。

また、先ほど答弁したとおり、日本航空株式会社の社員を対象としたボランティア活動に農作業体験を組み入れた企画を検討するなど、受入れ人数の増加も図ってまいります。

なお、農作業体験については、受入れ能力と希望人数のミスマッチについて、美郷町のみならず大仙市や仙北市でも同様の課題を抱えており、両市と広域的に連携することで受入れ人数を分担し、できる限りご要望に対応することで受入れ人数の増加につなげてまいりたいと考えております。

そのほか、あきた美郷づくり株式会社が実施する登録料に応じて米や漬物等の町内農産物等を提供するふるさとオーナー事業について、これまでは、東京都大田区を中心に事業をPRしてまいりましたが、今後は御田小学校や千駄木小学校、本町が交流している企業、団体にもPRし、美郷町の

農産物や農産加工品など、食の魅力を通じて農作業体験への興味喚起につなげてまいりたいと存じます。

こうした取組を通じ、少しでも都市農村交流の幅を拡大していき、ひいては本町への移住、さらには町外からの就農などにもつなげてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 次に、教育長は登壇願います。

（教育長 栗林 守 登壇）

○教育長（栗林 守） 国際教育、交流の促進についてお答えいたします。

小中学校では、外国語教育の推進と充実を図るために町独自にALTを3名配置し、さらに小学校には県教育委員会より英語専科教員が1名加配されて授業を進めております。

小学校では県の意識調査で外国語が好きと答えた児童が県平均を上回る傾向が見られます。

今後小中学校どの学年でも好結果が得られるよう、努めてまいります。

国際教養大学との相互交流ですが、こども園では各種行事を通じた留学生との交流、小学校では交流とともに、外国語による表現力を高めることを狙いとして行っております。

小学校アンケートでは、「他の国の文化や生活を知り、関心を高めることができたか」の問いに肯定的に捉えている児童が98%を超えております。

大変有意義な活動と捉えておりますので、中学校にも交流を進めてまいります。

また、本町ではタイ王国との中学生交流事業を進めております。昨年度に事業を再開し、今年8月には美郷中生12名がアニュラチャ・プラシット・スクールで生徒たちと交流し、ホームステイを通じて言語、風習、文化に触れることができました。

現地での美郷中生の会話は、ほとんど全て英語で行われていました。来週タイ王国から生徒12名が本町を訪問し、美郷中生や地域の方々と交流を行う予定です。

授業への参加をはじめ、集会活動、体験活動などに参加し、多くの生徒と英語を介して交流を深める計画です。

さらに、今年度は1泊のホームステイを実施することにより、生徒の家族や地域の方々ともより一層交流を深めることができると期待しているところです。

議員より町民や留学生を巻き込んだ交流事業の提案がございましたが、まずは、現在取り組んでいる外国語教育や国際教養大学留学生との交流、タイ王国との交流など、特色ある事業のより一層の充実に努めたいと思います。

なお、他の地域での参考となるような取組状況については、引き続き注目していきたいと考えて

おります。

次に、芸術文化交流の促進についてお答えします。

町では第3次総合計画及び第5次社会教育推進計画を踏まえ、友好交流自治体との交流を通じて町芸術文化活動の活性化を図ることを目的とし、令和4年度より実施の芸術文化交流促進事業を計画いたしましたが、新型コロナの影響から、事業を実施するまでには至りませんでした。

その後、大田区立郷土博物館の学芸員と大田区の芸術文化団体の作品展示ができないか協議し、今年度の美郷フェスタ文化展において、大田区「大森麦わら細工の会」が復元した麦わら細工14点を展示することができました。

来場者からも高い関心を持って鑑賞いただくことができ、芸術作品を通じた交流自治体との新たな交流の機会となりました。

今後も情報収集や意見交換を図りながら、他交流自治体の各団体、サークルとの交流に向けて取り組みたいと考えております。

また、議員ご指摘の交流自治体だけではなく、先進的な取組をしている団体との交流についてですが、このような取組は、芸術文化団体にとって刺激と芸能技術の向上につながり、今後の団体活動の活性化や継続の動機となると認識しております。

交流自治体との芸術文化団体等の交流については、町の「菖蒲太鼓保存会」と栃木県那珂川町の「那須小川まほろば太鼓」などは、既に自主的にお互いの芸術文化祭等へ参加するなど、交流を重ねております。

そのため、まずは交流自治体との芸術文化交流を図るとともに、交流自治体との交流を希望される際は、団体等の情報提供を行ってまいります。

また、そうした活動に際しましては、生涯学習団体等バス借り上げ助成金制度を積極的に活用いただき、関係団体との情報共有を図りながら、各団体の相互交流が自主的に行うことができるよう、引き続き支援し、町の芸術文化交流を促進していきたいと考えております。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）高橋邦武議員の再質問を許可いたします。

なお、質問の相手方を述べてから再質問をお願いします。

○6番（高橋邦武） 町長に対していたします。

企業等交流の関係でございますが、やはり産業振興ということにつなげるのが重要であると思っております。しかし、口で言うほど簡単ではないということも認識しているところであります。

今県で洋上風力発電を中心とした再生可能エネルギーの拡大に向けた取組を進めているところでございますが、この中で、沿岸部だけではなくて内陸部にも地域振興策の恩恵が還元されることを期待する声がございます。

事実、大館市等で受注ですとか、商品開発、販路開拓する連携共同というものが生まれているところでもあります。

同じように、我が町におきましても、連携企業交流によりまして、産業振興が新たにできる、創出をされる、あるいは拡大されることを期待する町民が多くおります。

これは、町民ですとか町内企業に波及する有益な経済効果が出てくることを意味していると思いますが、最近エネルギーですとか、原材料等の価格の高騰によりまして、厳しい状況となる法人が増えております。特に、製造業の業績に影響を与えているということで、雇用の不安も高まっておりますので、内外に情報発信できる明るい事例が増えるといいなと思っているところでもあります。

それから、異業種交流ですとか、異文化交流によりまして、新たな事業が生まれるということも期待されるところでありまして、経済効果や地域活性化につながる交流の取組が必要ではないかというように思います。

町長には、つながりが生まれる交流を創出いたしまして、拡大することによって地域経済の活性化に向けました、これからの展開あるいは展望につきましてご所見をお伺いいたします。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は自席でお願いします。

○町長（松田知己） ただいまの再質問にお答えいたします。

美郷町が連携協定を結んでいる企業それぞれの主となる事業を展開しながら、それ以外にも幅広く事業を展開していることは議員もご承知のとおりと思います。

現在のところ、それぞれの企業と美郷町は1つの目的を持って連携協定を結び、その目的に合致するような展開をしておりますが、連携企業が幅広い事業を展開することを踏まえたと、その主目的以外にも町としても交流の幅を広げることが肝要かと存じ、来年度以降そうした取組も意識して取り組んでいく下地をつくっているところですので、まずは、さらにほかの企業との連携ということではなく、現在連携している企業との交流の幅を広げることによって、町内産業であったり、あるいは異業種との交流による新たな展開につながるよう努めてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで6番、高橋邦武議員の一般質問を終わります。